

「草莽崛起(そうもうくつき)」とは

「草莽崛起(そうもうくつき)」とは、志を持った在野の人々こそが日本の変革を担う原動力になるということ、明治維新の父 [吉田松陰](#) が維新への決起を促した言葉。

草莽とは「一市民」とか「在野の民衆」の意で、崛起は「立ち上がれ」という意味。

[吉田松陰](#) が唱えたこの草莽崛起(そうもうくつき)論は久坂玄瑞が武市半平太に宛て坂本龍馬に託した有名な書簡にも見られます。

「竟に諸侯待むに足らず、公卿待むに足らず、

草莽志士糾合義拳の他にはとても策これ無き事」

今の権力者たちでは本当の改革は出来ない。身分を問わない志高い者が立ち上がって新しい時代を築くことを意味している。